

Hello

2003

3

No.231

friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ あーさぷさぷ 1階 045-896-2626

特集 かながわの中の沖縄



川崎駅前の石敢當
沖縄の台風被害に
対し川崎で行われ
た救援活動の返礼
として、1970年に
送られた。厄除け
の意味がある。

かながわには、
沖縄と特別なつながりのある人々が
住んでいます。

沖縄生まれのウチナーンチュ
かながわで生まれたウチナーンチュ
南米で生まれたウチナーンチュ



道ジュネー
鶴見・仲通では旧盆の時期
に、エイサーを踊りながら
巡る、道ジュネーが開かれる。

沖縄角力大会
毎年夏に(財)おきつる青少
年育成会によって開かれる。

沖縄のような澄んだ青空はないけれど、
お互いが豊かになれるような出会いが
待っているような予感。

かながわの中の沖縄と人々に
出会ってみませんか？



おきつる会館にて
児玉智鶴沖縄舞踏研究所の皆さん
1階は食材店や料理屋などがあり、
3階のホールでは舞踏教室や三線教室、
集まりなどが行われている。



南米・沖縄料理 もろみや
鶴見の南米文化を取材する子どもたちが訪れ、
沖縄と南米の味を楽しんだ。
(協会エスニックレストラン提携店)



タカラシュハスコ
沖縄県系2世の高良一家が営むブラジ
ル料理の代表格シュハスコと沖縄料理
が楽しめるお店

かながわの中の沖縄

ウチナンチュとは、「沖縄の人」という意味の方言で、県外、海外を含め、沖縄につながりをもつ人々のこと。かながわには、さまざまな歴史を持ったウチナンチュたちが住んでいます。

沖縄から神奈川へ

横浜市鶴見区の仲通商店街を歩くと、沖縄そばの看板を掲げた店が複数あり、周辺には屋根や門柱に魔除けのシーサーを飾り、夏には軒先に見事なゴーヤが実る家もある。

今日、川崎市に約1万人、横浜市鶴見区に約3万人と言われる沖縄出身の人々が移り住むようになったのは20世紀初頭。経済危機に苦しむ沖縄から、発展期の京浜工業地帯へ仕事を求める人たちが始まりました。

現在では、鶴見区のおきつる会館、川崎区の川崎沖縄労働福祉文化会館などを活動の拠点として、三線(さんしん)や琉球舞踊研究所の教室が開かれ、琉球角力大会、運動会など一年を通じて沖縄の人々の行事が行われている。

現在では世代が進み3世代に渡って神奈川に住んでいる家族もいる。県人会の活動に参加するのは、沖縄生まれの1世が中心だが、最近では鶴見のエーサー隊「潮風(うすかじ)」など若者が中心の活動も活発に行われている。

沖縄から南米へ

沖縄は日本有数の移民県でもあり、県系人は世界に30万人、海外の日系人数の約12%になると言われている。特に南米には20万人以上の沖縄を出身とする人々が住んでいる。

沖縄から南米への移民は1906年にペルーへの移民から始まり、ブラジル、アルゼンチンなどに渡った。移民先での生活は容易ではなく、第二次世界大戦中に排日運動が起きたペルーでは、商売をたたんだり、アメリカの強制収容所に送られた日系人、県系人もいる。

戦後直後から南米移民は再開され、米軍統治下の琉球政府の政策として移住が行われたボリビアでは、コロニア・オキナワという移住地が作られた。疫病の流行や干ばつで生活は厳しく、ボリビアから南米各地を転々することを余儀なくされた人も少なくない。

南米のウチナンチュ

沖縄出身の人々は、苦労が多かった移住先でも県人会・郷友会を作り互助・文化活動持续开展、芸能や食文化などが、次代に伝えられている。

勿論、南米生まれの3世、4世はスペイン語やポルトガル語を話し、日本語や沖縄方言を解さない場合も多いが、沖縄の文化は生活の中にあり、生まれた国と沖縄の両方の文化に慣れ親しんだ生活を送っている県系人が多い。

沖縄の人々にとっても、海外移民は親戚の誰かが行っている身近なもので、その絆を深める目的で始まった「世界のウチナンチュ大会」は5年ごとに那覇市で開かれ、世界中から2万人が参加する祭典となっている。

南米から神奈川へ

1990年の「入国管理および難民認定法」(入管法)改正で、日系3世までの日本での就労が認められることになったのを機に、鶴

見や川崎には、特に沖縄系の南米出身者が集住するようになる。

言葉や文化が違う日本で生活する際に、親戚や知人の助けがあれば、比較的容易に仕事や住居を見つけられるということが、集住の背景として考えられている。

川崎や鶴見には、南米出身の沖縄系の人々が営む店も目立つようになり、沖縄と南米料理の両方を楽しむこともできるようになった(3頁コラム参照)。

また、南米出身のウチナンチュで、地域の踊りや三線の教室に通っている人もおり、相互の交流も進んでいる。沖縄から移り住み、神奈川で世代を重ねるウチナンチュ。沖縄から地球の反対側の南米へ、そして神奈川へやってきたウチナンチュ。海を渡った様々な沖縄が神奈川にはある。

地域の文化としての沖縄文化

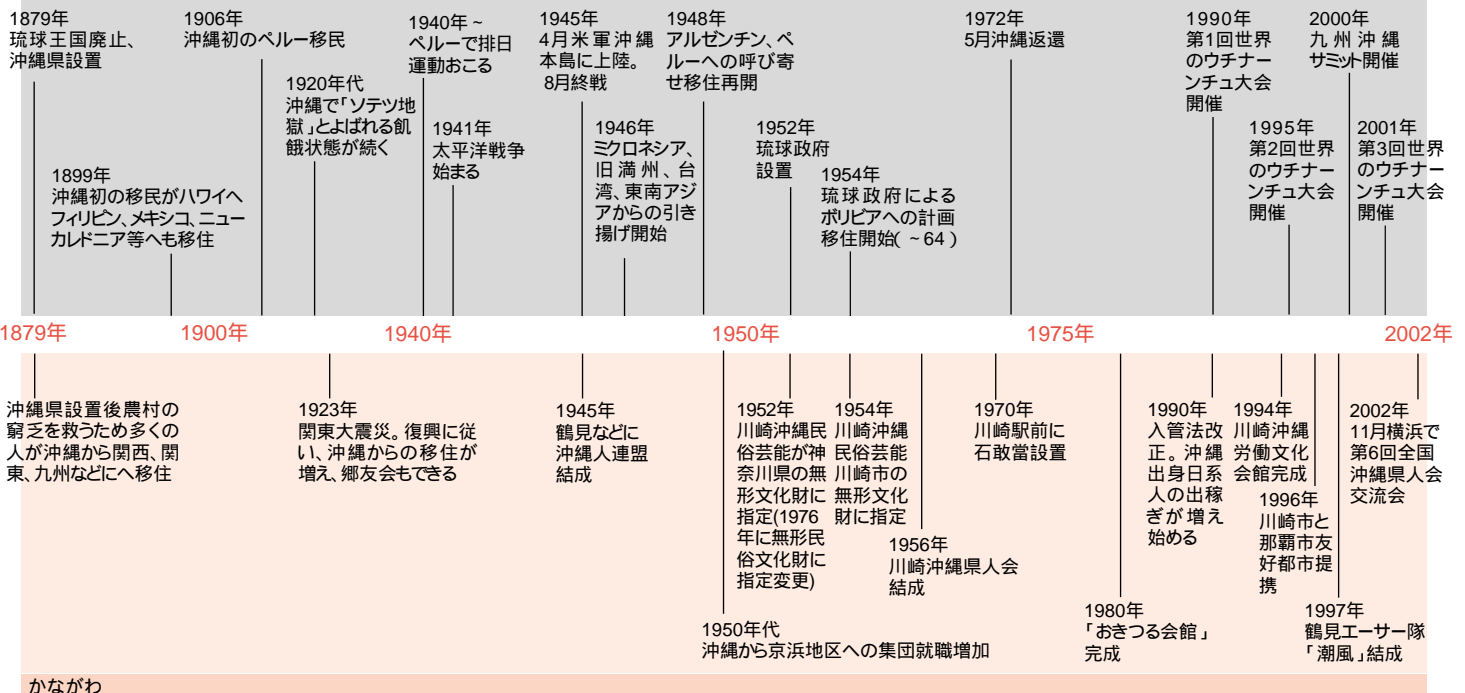
最近、「リトル沖縄」などと鶴見や川崎の沖縄文化が雑誌やTVでも取り上げられることが多くなった。

横浜鶴見県人会の役員を務め、自宅で三線教室を開く仲宗根嘉さんは、「以前は、『琉球人は就職お断り』と言われたり、アパートの入居も難しい時代があった。今は色々な所から沖縄芸能の公演依頼が来る。最初は沖縄がエキゾチックな外国のように扱われてることに違和感があった。でも、発表することで自分たち自身も沖縄文化を再認識することができる」という。

現在、三線教室や舞踊研究所などには、沖縄出身以外の人たちの入門も多いそうだ。仲宗根さんは、こう考えている。「沖縄生まれの1世が少なくなると、今までのような結束力はなくなるだろう。でも、文化・芸能を通じてのつながりは強くなっている。神奈川の中の沖縄は次代に継承されていくだろう。」

沖縄移民・移住関連年表

沖縄(移民関連)



かながわの中の沖縄

かながわの中で

沖縄を伝える

家族に友人、琉球舞踊、古武道、沖縄料理に泡盛。かながわの沖縄に包まれている仲間あき子さんに聞きました。

沖縄から横浜まで家族の物語
祖父が移民したフィリピン、ミンダナオ島で私の父は生まれました。当時、沖縄からたくさんの方が移民し、麻の栽培や加工に関わっていたそうです。

父は沖縄に戻った後、勉強のために東京に来て、北海道出身の母親と出会いました。姉と私が生まれたのは、北海道の千歳市です。

小さいころから、父が子守歌に沖縄の歌を歌ってくれたり、沖縄の親戚の所にも何度か遊びに行ったので、家庭の中に自然に沖縄がありました。

でも実は沖縄料理は苦手でした。沖縄の親戚がゴーヤを送ってくれたりしたけれど、食べられなかった。お酒を飲むようになってからは、大好きになって今は沖縄料理のお店ばかり行っているんですけれどね。

小さい頃に川崎、そして横浜に引っ越しました。可愛がってくれた近所の女性や、今も一緒に踊りを習っているお隣さんなど、偶然親しい人に沖縄出身の人がいつもいました。

沖縄を描く

もともと、ものを作ったり、表現するのが好きで、絵の学校に通って油絵の勉強をしました。

沖縄で書いたデッサンを題材にした作品を展示会に出したら、来訪者で「忘れていた沖縄の風景に感動しました」と記帳して

くれた人がいました。東京に住む沖縄出身の女性だったんですが、嬉しかったですね。

琉球舞踊

琉球舞踊を始めたのは、姉と一緒に父の還暦のお祝いに踊ろうということになって。鶴見のおきつる会館での教室に通うことになりました。

父はとても喜んで、今でも発表会は必ず見に来てくれます。父方の祖父は踊りが好きだったそうで、「おじい、おばあにも見せたかった」といつも言っています。沖縄で発表会を開いたときは、親戚一同見に来てくれました。

始めた当初は、生徒の中で私が一番若い方で、「沖縄生まれでもないし、方言も話せないのに、本当にできるの。」と言われたんですよ。県人会に集うのは、沖縄生まれの一世の人ばかりだから。でも、逆にそれでなくぞ、とがんばるようになった。

それから先生方の娘や息子も参加するようになって、私と同世代の彼らと先生方と家族ぐるみつきあいが続いています。踊りや三線の先生たちが、私を二世として目覚めさせてくれたのだと思います。

大阪の中の沖縄

姉が住んでいるので、大阪にはよく行きます。お世話になった人が大正区に開いた沖縄料理の店で手伝っていたこともありま

す。とても盛り上がるのが、甲子園での沖縄代表校の応援。以前はエイサーが禁止されていたので(注)すごいんですよ。



八重山の踊りを披露する仲間さん

声がかかるくらい大声で応援して、特に父親の母校が会場したときは家族全員で行きました。

大阪で沖縄にどっぷりつかっていました。感じたのは、大阪では、沖縄出身の子どもに三線を教える活動などがあり、文化をしっかり守っているな、ということ。

鶴見のエイサー隊「潮風」誕生

琉球方言の勉強していた仲間と「エイサーやりたいね」と話していた時に、ちょうど鶴見区政70周年のパレードがあると聞き、練習を始めました。

先生たちが協力して衣装や太鼓を用意してくれて、少人数の参加でしたが、地元の沖縄出身の人たちが懐かしがって喜んでくれました。

それからは、踊りとエイサー三昧の毎日で、忙しかつたけれど、とにかく関われるのが楽しかった。

今では潮風のメンバーも増えて、区内の小学校の運動会や国際交流まつりなど地域の色々な行事に参加しています。

将来のこと

実は、今年、稽古場がある家に引っ越すんです。これからは、自分が踊りを伝える方になれたらいいなと思っています。

地元で息づいている沖縄の文化は、絶対なくならない、というか栄えていくと思います。

今では、教室にも三世にあたる小学生も参加しています。私も子どもたちがもっと関心を持ってもらえれば、とさりげなく沖縄の本をプレゼントしたりしています。

鶴見にも川崎にも、沖縄に帰りたくても帰れない沖縄出身の人がたくさんいる。そういう人たちに喜んでもらえる活動を続けられたら、嬉しいと思っています。

(注)1994年、沖縄代表校の応援団によるエイサーが、「華美にして奇異」として、全国高校野球連盟によって禁止された。

**「エスニックレストランマップ2003」
ができました。**

神奈川県国際交流協会では、県内のエスニックレストランと提携して、皆様に様々な文化の「味」を紹介しています。今回は、「ドーラス」(横浜市鶴見区・ブラジル料理)のほか、「シクロ」(藤沢市・ベトナム料理)「オアシス」(藤沢市・ペルー料理)と3件の新提携レストランが加わりました。また、神奈川県国際交流協会の事務所がある、あーすぶらざ内のレストラン「メルヘン」、ブラザショップ「ベルダ」でも会員割引サービスがあります。

*会員以外でマップをご希望の方は、定形封筒に90円切手を貼って、協会までお送りください。折り返しマップを送付します。

鶴見で沖縄と南米の味と文化を伝える人たち

協会のエスニックレストラン提携店の一つ、「南米・沖縄料理 もろみや」の諸見里悦子さんは、沖縄からボリビア、ブラジルを経て、現在鶴見に在住しています。沖縄方言、スペイン語、ポルトガル語、日本語を操り、お店では基本的な沖縄料理の他、パステルなどのブラジル料理、南米風にアレンジしたミミガーなど、彼女の暮らしてきた土地の味を味わうことができます。悦

子さんは、ブラジルで沖縄古典音楽を学び、師範免許を持つほどの腕前です。

新提携店の「ブラジル料理店・ドーラス」のオーナー、比嘉リカルド成寸さんも、沖縄県系2世。成寸さんが初めて来日したのは、第1回世界のウチナーンチュ大会が那覇市で行われた1990年。ブラジル代表として子どものころから続けていた琉球空手6段の業を披露したそうです。

かながわの中の沖縄

ペルーのオキナワで育って

5年前にペルーから来日し、3月に高校を卒業する呉屋カルロス君に、沖縄について、日本に住むことについての思いを聞きました。

呉屋家の歴史

沖縄の西原町出身の母方の祖父母と知念村出身の父方の祖父母は、ともに戦争の時に、ペルーに船で移民したそうです。スペイン語がほとんど話せなかったため、母が祖父と話す時はウチナーグチ（沖縄の方言）で話していたのを覚えています。

ペルーには、沖縄出身の人がたくさんいて、他の地域出身の日系人と区別するんです。「私はオキナワ」「彼はナイチ」というふうな。子どもの時は、「ハボン（スペイン語で日本）」と「オキナワ」は違う国なのかと思っていました。

親戚に聞いても「今はハボンの一部だけれど、ウチナーンチュは違うんだ、行ってみなきゃわからない」と言われて、ますます混乱、いつかその「オキナワ」を自分の目で見たいと思っていました。

ペルーの中の沖縄

生活の中で、ペルーと沖縄が混じっていた部分が結構あります。例えばお葬式の時、教会でミサを行った後、家で親戚一同集まり、仏壇にお線香をあげて沖縄式のお祈りをする。その後沖縄料理が出て、みそのおにぎりとか、豚肉の煮付けやかまぼこ、昆布などいっぱい。そういうごちそうが大好きで、日本に行けば、毎日そういうのが食べられるのかな、と思っていました。

簡単な沖縄の言葉は知っていたのですが、

それが日本語だと思っていたので、日本に来て通じなくてびっくりしました。

神奈川に来る

父は僕が5歳の時に日本に働きに行きました。その後一番上の兄も日本に行ったのですが、家族一緒に暮らそうということで、1997年、僕が12歳の時に全員で日本に行くことになった。家族全員でがんばって働いて、ペルーで商売を始める資金を作ろうと考えていたようです。



沖縄で初めて会うおじさんと（右側がカルロス君）

父親と長く離れて暮らしていたので、最初はどのように接してよいかわからず、戸惑いがありました。

僕らと前後して親戚も来日し、今関東だけでも11家族います。日本でも誕生日などに皆で集まってフィエスタを開いています。

家族の絆が強いんですね。特に母とは、親子というより、何でも相談できる友人という感じ。僕は笑い上戸なんだけど、母親もすごく明るくて、一緒にいるだけで安心できる。

日本の学校に入る

来日当初は、生き方も考え方も全然ペルーと違って、ショックでした。横須賀の中学に編入した時は、同じ学年のパラグアイ出身の子が通訳してくれました。彼とは高校も同じで、今でも一番の親友です。

中学の時は、日本語もあまりできず、友達も少なかったのですが、高校では色々な国から来た生徒がいて、友達もたくさんできたし、3年間はあっという間でした。

日本語ができるようになって、役所の手続きなどで、両親や親戚の通訳ができるよ

うになりました。卒業したら、家族を手伝いながら、仕事をする予定です。

沖縄への旅

日本に来てからも、ずっと沖縄に行きたいと思っていました。「沖縄出身でしょ」といわれながら、どんな所が知らなかったから。

高校2年生の時に、「沖縄ヘルツを探る旅」という旅に誘われました。高校生や中学生、ボランティア合わせて30人位のグループで、僕の兄も一緒に参加しました。行きは船で、沖縄まで3日くらいかかりました。昔、ペルーへの移民も船で2ヶ月くらいかかったそうです。

離島に行って、きれいな海を見たり、浜辺で交流会をしたり。ペルーでも、家にお客さんが来て、三線を弾いて皆が踊る、というのがよくあったので、沖縄でカチャーシー（三線に合わせる即興の踊り）を見たとき、初めて来た所なのに、なんだかすごく懐かしい気持ちになりました。心の底から明るくなれるというか。

沖縄に行って、初めて知ったこともたくさんありました。初めて会うおじさん、戦争の話の聞いたり、米軍基地が見渡せる所にも行きました。

ペルーで歴史の授業が好きだったんですよ。インカ帝国の話とか。沖縄の歴史ももっと知りたいと思いました。

次に沖縄に行く時は、母親を連れて行ってあげたいと思っています。

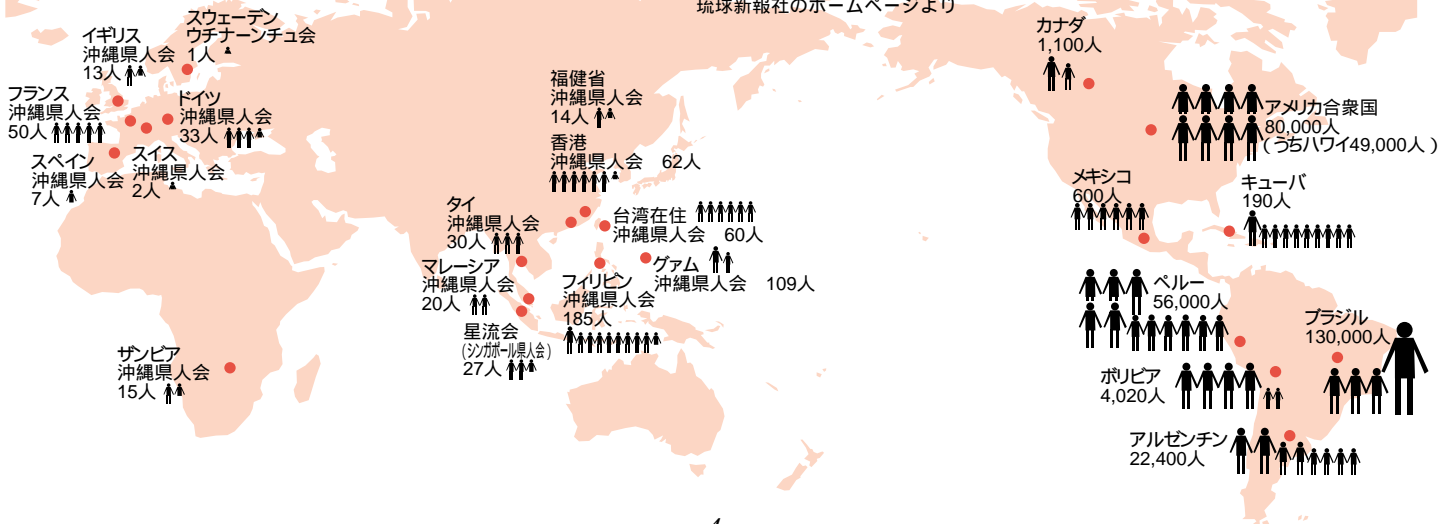
日本で生きていく

ペルーはもちろん恋しい。友達にも会いたいし、日本にはない何かが、僕を呼んでいる気がする。経済的には大変だけれど、美しく、素晴らしい国。自分の国を誇りに思っています。

家族や親戚もほとんど日本にいますので、これからもずっと日本に住むでしょう。でも、自分はペルー人で、沖縄のことも知っている、色々な国の友達もいるって。それを全部全部大切にしていきたいです。

世界のウチナーンチュ30万人分布図

琉球新報社のホームページより



春期英会話講座 受講者募集

世界のこと、日本のこと、日常生活のことなどを、より多くの人たちと話せるようになることを目標に、英会話講座を開講します。神奈川県友好姉妹州の米国メリーランド州から招へいた専任講師が講座を担当します。楽しい雰囲気の中で英会話を学びませんか。

申込み受付日時

昼クラス希望の方 3月29日(土)午前10時
夜クラス希望の方 3月29日(土)午後2時
クラス分けのための簡単なテストを行ないますので、電話予約のうえ、上記日時にお越し下さい。筆記用具と受講料をご持参下さい。申込み受付にはテストの時間を含めて約2時間かかります。

申込み希望者が各クラスの定員を超えた場合は抽選となります。定員に満たない場合は、随時追加受付を行ないますので3月29日以降にお問合せください。

対象：18歳以上の方

定員：各クラス17名(秋期英会話講座の継続受講者を含みます)

費用：受講料 39,900円(消費税込み、教材費は含みません)

協会年会費 3,000円(会員の方は不要)

費用は申込み時に一括でお支払いいただきます。

また、教材費(3,000円程度)を申込み時にご持参ください。

お支払いいただいた費用は、払い戻しできませんのでご了承ください。

会場：神奈川県国際交流協会・研修室

(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分・あーだ 355c 1階)

講座内容：

講師：Mr. Robert Jay Gould (A・B・Cクラス担当)

清水弥生 (Dクラス担当)

期間：4月5日～8月12日(週1回、全18回)

*祝日は休講です

クラス：

Aクラス(上級・自由英会話)

社会時事一般の応用会話ができる方のクラス

Bクラス(中級・日常英会話)

英語で簡単な受け答えができる方のクラス

Cクラス(初級・基礎英会話)

英語の聞き取りは少しできるが会話が苦手な方のクラス

Dクラス(基礎・入門英会話)

基礎からもう一度英語を学びたい方のクラス

講座日程

	午前 (10:30～12:00)	午後 (13:30～15:00)	夜 (18:30～20:00)
火曜	D(基礎)		
水曜		C(初級)	B(中級)
木曜		B(中級)	A(上級)
金曜		A(上級)	C(初級)
土曜		A(上級)	

問合せ：国際協力課 (E-mail: minsai@k-i-a.or.jp)

講師紹介：ロバート・ジェイ・ゴールド

昨年の9月に来日。メリーランド州ボルチモア生まれ。南米のチリでの生活が長く、チリ大学で分子生物学を専攻。メリーランド大学では英語を母語としない人への英語教授法を学んだ。スペイン語はネイティブレベル、ドイツ語は中級、イタリア語・フランス語・ポルトガル語・日本語が少し話せる。現在日本文化研究として「怪談；日本の妖怪」について勉強中。

がんばれ！ 草の根国際協力

「かながわ民際協力基金」春の助成申請募集

神奈川県国際交流協会では、4月1日から5月31日までの間、「かながわ民際協力基金」への助成申請を募集します。申請できるのは、次の～のいずれかに該当し、今年10月1日以降、1年の間に開始される事業です。

なお、緊急支援事業の助成申請については、随時受け付けていますので、お問い合わせください。

海外の開発途上地域での協力活動
外国籍県民等を対象とした、県内での協力活動

国際協力の担い手を育成する活動
NGOの組織強化や活動の充実を図るための活動

申請を希望される方は、「2003年度助成金申請の手引き」を参照し、受付期間内に申請書とその他の必要書類を提出してください。「申請の手引き」は、当協会の事務所で配布しています。郵送をご希望の場合は、200円分の切手を貼ったA4サイズ(角2号)の返信用封筒をお送りください。

また、当協会のホームページ上でも、「申請の手引き」を見ることができます。

申請資格 県内に活動拠点があるか、主に県内で活動するNGO
助成上限 ～ 300万円 50万円

いずれも、助成対象経費から他の公的助成金の額を引いた金額の1/2まで

審査結果 学識経験者、NGO関係者などで構成される審査委員会で審査を行い、2003年9月30日までに結果をお知らせします。

問合せ先 国際協力課

助成申請ガイドンス

「かながわ民際協力基金」への助成申請に関する説明会です。申請書の書き方や審査のポイントについてお話しするほか、他の助成制度に関する情報提供も行います。当協会との「共催」や「後援」など、助成金以外の活動支援の可能性についても、お話ししたいと考えています。活動の計画がまだ具体化していない場合でも、気軽にご参加ください。

とき 4月13日(日)
午後1時～3時

ところ 地球市民かながわプラザ
研修室A(1階)

日本語学習教材 「わたしのこと」増刷

このたび、当協発行の日本語学習教材「わたしのこと」を増刷しました。

1991年初版発行 A4版 139ページ
制作：高柳和子、遠藤裕子、石崎晶子、岩崎理都子、歌原祥子

頒布価格

一般 1冊 1,000円

協会会員 1冊 800円

協会窓口で購入できます

申込方法

送付をご希望の方は、送料との合計額を郵便振替でお送りください。

1冊：1,000円+送料210円=1,210円

(協会会員 800円+送料210円=1,010円)

2冊以上：宅配便着払いを利用するため

冊子代金のみお振り込み下さい。

郵便振替口座：00280-4-49894

名義：財団法人神奈川県国際交流協会

「通信欄」に「『わたしのこと』

冊希望」と明記下さい。

問合せ

企画情報課 045-896-2896

国際教室などで使える教材情報サイトができました!! www.k-i-a.or.jp/materials/

このサイトは、さまざまな文化的背景を持つ子どもたちを支援する「国際教室」などで実際に使われている約60の教材情報などを掲載したものです。

このサイトができた「きっかけ」

このサイトは、2001年から協会が、「国際教室」担当の先生方や、教育委員会、教育センターで外国人児童生徒教育の分野に携わる方々と一しょにつくった、「国際教室等における教材整備のための検討委員会」という場での議論をもとにつくられたものです。「検討委員会」では、課題を机上で整理するだけでなく、具体的な作業を通して、多文化共生をめぐる課題の解決に一步を踏み出すことを目指してきました。その成果のひとつが、このサイトです。

このサイトの「ねらい」

「国際教室」で活用される教材は、自治体が独自に作成したもの、市販のもの、学校の先生が独自に開発したものなど、様々なものがあります。また、冊子、CD-ROM、絵カードなど、その形態も多様で、その数は1000をゆうに超えるほどです。このサイトは、最初の一步として、日本語指導教材などの中から、多様な子どもたちを受け入れる際に実際に活用できる「お薦めの文献」を、「国際教室」を担当している先生方から選んでいただき、評価や所在地などの情報を付加して、提供することから始めることにしました。今後、このサイトが、「国際教室」の先生はもとより、地域で学習支援をおこなうNGO・ボランティア団体の方々にも活用していただければ幸いです。



このサイトの特徴

受け入れに関するもの、カリキュラム、指導教材、教員・辞典、コンピュータ・ソフト、対訳集の6つのカテゴリーに分けられているので見つけやすい対象年齢・段階が記されているので、子どもに合った教材を探し出せる現場の教員のコメントが書かれているので、使い方の具体的なイメージが持てる神奈川県内で具体的に手にとって閲覧できる場所の情報が盛り込まれている

このサイトは、完成品ではありません。情報・コメントの追加など、みなさんのご意見をもとに育ててゆくサイトです。どうか、このサイトの「育て」に、ご協力ください。情報提供は、kikaku@k-i-a.or.jp まで。

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費：個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営するあーび 355内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00~20:00
(土曜・日曜日・祝日 9:00~17:00)
映像ライブラリー 9:00~17:00

*月曜日は休館日です。
(ただし、祝日は開館しています。)

第12回カナガワビエンナーレ
国際児童画展開催

絵画を通じて神奈川の子もたちと世界の子もたちが、お互いの生活や文化を理解し合う目的で実施されている「カナガワビエンナーレ国際児童画展」が開催されます。

この絵画展は1979年の国際児童年を契機に開始され、今回が12回目。県内の5,165点を含め、世界の111ヶ国から約3万8千点余の絵画が集まりました。

この審査会が開催され、大賞3点を含む499点の入賞作品が決定しました。

展覧会では、全入賞作品を展示するほか、6月からは県内の市や町での巡回展も開催されます。

子どもの目を通して描かれた日常生活の多様性にあなたもふれてみませんか?

【展覧会】4月26日(土)~5月11日(日)
あーび 355 企画展示室(3階)

*巡回展の詳細についてはお問合せください。
地球市民学習課：045-896-2899

大賞



「フルーツを吹くクリシュナ」
Siddhant S. AGGARWALさん(インド)



「帽子を被った肖像」
Nikola G. DIMITROVさん(ブルガリア)



「宇宙から落ちてきた魚」
小沢亜里沙さん(大和市)



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川国際学生会館を運営しています。

Hello friends

2003年3月5日発行
第231号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
045-896-2626 FAX.045-896-2945
URL: <http://www.k-i-a.or.jp>
E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp
印刷 株式会社 佐藤印刷所

1996年3月、横浜市鶴見区の国際交流事業「琉球文化の集い」が開かれた。それによって著名人による講演会が中心だった事業が、「地域に息づく多様な文化を紹介しよう」と方向転換、第一回目の試みだった。鶴見で伝えられていた沖縄芸能の発表や、沖縄にルーツを持つ南米出身者のスビーチなどが行われ、多くの参加者が集まった。

以来、地域のボランティアが企画から運営までを担う手作りの国際交流まつりが毎年行われ、「鶴見の街は世界の街」を合言葉に、韓国・朝鮮・中国・南米・フィリピンなどともに、沖縄文化の発表もあり、参加者同士が交流できる恒例の行事となっている。

地域の小学校では、運動会でエイサーの発表があり、理科の授業で栽培したゴーヤを使った調理実習などが行われている。そしてそのような活動に、沖縄出身の保護者や地域のグループも協力している。

今回のハロー・フレンズでは、「かながわの中の沖縄」を特集した、「沖縄」というと、基地 観光地と非日常的な場面で連想されがちだが、生活の一部として沖縄文化とともに生きる人々の姿を紹介したいと思った。

取材では沖縄、神奈川、南米、生まれた所は違っても、沖縄にこだわりの持ち、しかも他の文化を受け入れる柔軟さを兼ね備えている人たちが出会うことができた。話を聞いて沖縄料理屋のメニューにも、「ゴーヤチャップリ」-タコライス-など沖縄とそれ以外の材料や調理法を組み合わせて定番化したものが並んでいた。

神奈川で、そのような豊かでおもしろい出会いが、もたらしたことに感謝しつつ、これからも、もっともっと知り合っていきたいと思った。

(経営管理課・富本潤子)

*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。今回の機関紙の発行は5月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)